

心の鏡

三年 讃岐 賢（平成十一年度）

みなさんは、自分の気持ちを映し出す心の鏡を持っていますか。僕は一学期の初めに心の鏡を見つけることができたのです。

受験生という立場にして、勉強をすることだけしか頭になく、長くて暗いトンネルの中にいるような気がしていた。そのせいか、学校生活も勉強にしても、楽しくも何ともなく、毎日がつまらなくなりかけていた。そのことを誰にも相談することもできず、ただ一人で悩んでいた。

「なぜ、こんな思いをしなければならないんだ。」その答えを見つめようとしたが、答えを見つけないどころか、逆に自分を追い込んでしまうようだった。勉強をしなくてはいけない。でも、何かもつと大切なことがあるような気がする。こんな気持ちが続き、自分を襲ってくるのはあせりばかりだった。

その時、僕の悩みと全く同じことで悩んでいる中学生がテレビの中にいた。彼は、親や先生から勉強を押しつけられ、勉強のことが考えることができなくなっていた。そして、そんな自分にあせりを感じていたのだ。そこで彼がとった行動は、急に家を飛び出し何も、考えずに、ひたすら好きなサッカーをやり続けていたのだ。

僕は最初、なぜ彼がそういう行動をとったのか、全くわからなかった。しかし、そのことをしばらく考えているうちに、ふと、あることに気がついた。自分にとっては、大事なことだと思った。自分の好きな事、やりたいことなどを無視して、無理やり勉強だけに集中しようとしたこと。そのことで自分を苦しめようとしていたのだ。

僕は気がついた。勉強と好きな事の両立が必要だと。それからというもの、メリハリのある生活ができるようになった。

また、悩みの答えを見つめるために、「何のために勉強するのか？」という本を読んでみたこともある。筆者はこの本で「成績が良いとか、悪いとかではなく、自分の好きなことを見つけ、それを勉強していると、自然と他のことも見についてくる。結果は、初めに考ええるのではなく、あとからついてくるものなのだ。」と述べている。

昔の自分に、『何のために勉強するの？』と、問いかけても、高校受験のためにはしか答えられなかったと思う。しかし、この本を読んでこれからの人生を歩んでいく上で、勉強が絶対に必要だという事がよくわかった。筆者も言っているように、好きなことを勉強することは楽しい。将来、自分に本当にあっている目標を見つけ、それを勉強している時は、ものすごく楽しいはずだ。

また、筆者の考えに対して、自分の意見を持つことができるようになった。今は、自分の将来の夢は持っていないくて、何のため勉強しているかわからなくても、それはそれでいいと思う。今、勉強していることは自分の将来の夢に役立つ時がきつと来る、と。

僕が悩み、答えを探している中で、テレビの見方、本の読み方、ニュースの聞き方が明らかに変わった。昔の自分はマスメディアを何気なく見たりしていたが、今の自分は違う。何事も自分と結びつけるようになったのだ。ニュースを見るにしても、自分とはここが違うとか、自分にはここが足りないとか、自分を鏡に映し出すことができるようになった。

このように、自分自身が少し成長した今、考えてみると、本当にたくさんさんの鏡を見つめることができるようになった。これからは、もつとたくさんさんの鏡と出会い、また、自分の心の中に鏡をつくり、相手を映し出してあげられるような人間なっていきたいと思う。